

2019 年度レフェリー塾のご案内

1. 目的： 関西協会および関西各府県協会所属の意欲ある審判員に対して、自主的な研修・研鑽の場を提供し、審判技術の向上、知識の充実、モチベーションの増強をはかる。
2. 参加資格： 関西協会および関西各府県協会 所属審判員 ならびに インストラクター
3. 日程： 2019年5月～2020年3月（8月を除く）、全10回 各月の第4木曜日 19:00～21:00
既に8回実施 次回以降 2/27, 3/26
4. 会場： (大阪市内・毎回参加者にメールで通知)

第9回 2/27 (木) の会場



大阪市中央区久太郎町 1-2-27

☎ 06-6267-0201

地下鉄堺筋線・中央線 堺筋本町駅

3号出口東へ徒歩2分

中央会館 ではありません！ ご注意ください



5. 参加料： 通年 3,000 円 ※ユース審判員は 1,000 円
(初回参加時に徴収させていただきます)
6. 講師： (一社) 関西サッカー協会審判委員会育成部長 大歳 和法
ほか 1級審判員、各級インストラクター、各界有識者など
7. 追加申込： 途中からの参加も可能。(参加料は通年と同じ)
8. 申し込み方法： 以下の各項目を明記の上、担当大歳まで事前申し込みをして下さい。
①氏名 ②所属府県 ③審判資格(級) ④メールアドレス ⑤携帯電話番号
追加申込・その他 レフェリー塾に関するお問い合わせ 担当；大歳 ohtoshi@r3.dion.ne.jp

以上

前回 第8回のレフェリー塾は こんなことをしました。

課題図書「羊と鋼の森」宮下奈都 著/文芸春秋・文春文庫 を読んでいただきその感想を交歓しました。

主人公はピアノの調律師。羊はピアノのハンマー、鋼はピアノの弦なんですね。主人公はピアノに触ることもなかったにもかかわらず、たまたま出くわしたピアノの調律の現場で、その素晴らしさに魅せられ、調律師への道を歩みはじめます。新米調律師は、「特別に耳がいいわけでも、手先が器用なわけでも、音楽の素養があるわけでもない。何かに恵まれているわけではない。何も持っていない。ただ、あの黒くて大きな楽器に魅せられてここにいる。」彼は、様々な体験をしながら、悩み、考え、前進していきます。周囲の先輩からのアドバイスのひと言ひと言も、心に沁みます。「才能っていうのはさ、ものすごく好きだっていう気持ちなんじゃないか。どんなことがあっても、そこから離れられない執念とか、闘志とか、そういうものと似ている何か。俺はそう思うことにしてるよ。」「焦ってはいけません。こつこつ、こつこつです。」「この仕事に、正しいかどうかの基準はありません。正しいという言葉には気を付けた方がいい」

塾の参加者のひとり、『ピアニストはサッカーのプレーヤー、ピアノはサッカー、そして調律師はレフェリー』だと…。ピアニスト(お客さん)が求めるものが何なのか、それを理解することが大切、しかしそれが難しい。

「これが理想の音だ。弾く人のための音。ピアニストの腕が一番引き立つ音。誰も調律師のことなど考えない。それでいい。ピアニストが賞賛されても、ピアニストの手柄でさえないのだろう。それは、音楽の手柄だ。」

仕事の都合で塾に参加できなかったOさんからは、過去最大級に感動した本だったと、わざわざメールでその感想を寄せてくださいました。これを読んでくださった貴方にも、是非お勧めしたい1冊です。